8　リスクマネジメントに関するもの

演題番号29	院内における転倒予防
発　表　者	独立行政法人府中市病院機構　府中北市民病院　理学療法士　絹川　友紀
共同発表者	中井　訓治，新田　展矢，松田谷　まり子，上中　親臣

当院は広島県府中市北部地域に位置する60床（全床地域包括ケア病床）の病院である。入院患者の多くは後期高齢者であり，高齢者の転倒はADLの低下，要介護状態を起こす恐れもある。そのため，入院患者に対し転倒転落アセスメントシート，センサーマットの設置などの対応を行っているが過去３年間の転倒件数は常に上位に入っている。転倒事例を分析すると，入院患者の転倒の多くはベッドサイド周囲での自発的動作（トイレ動作など）によって発生していた。

そこで，2021年４月を転倒転落予防月間と設定し，ベッドサイドにタッチアップの設置，センサーマットON／OFFの徹底などの取り組みを行ったので，その結果と活動を報告する。

MEMO